



DIR INFORMATION

同志社ローム記念館 プロジェクト・レポート

DIR

[ディー・アール]

同志社クローバー祭2016

11月5日(土) 12:30 ~ 19:00
11月6日(日) 9:00 ~ 17:00

同志社ローム記念館プロジェクトも全チーム出展!
館内外でみなさんをお待ちしています。



2016年度 最終成果報告会

2017年3月4日(土)

本年度(第13期)プロジェクトが、1年間の活動実績
や成果を報告します。学生のみならず、卒業生のみ
ならず、ぜひご来場ください。



2017年度 プロジェクト募集!

あなたのやりたいこと、チームで実現しませんか?
次年度プロジェクトのエントリーに関する情報は、Webサイトまたは館内に設置する応募要項をご覧ください。
詳しくは事務局までお気軽にお問合せください。

編集後記

今年はオリンピックイヤー、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催された。ニュースで流れる競技後のインタビューを見るだけで、競技を観戦していないにも関わらずついもらい泣き...

4年間、世界一を目指して重ねられた厳しい練習、そして、選手同士やチームメンバーはもちろん、彼らを支える多くの人たちとの数々のドラマが繰り広げられたらと思うと心を動かされる。

スケールや抱えているものは違うが、プロジェクトにも通ずるところがある。

3月の最終成果報告会、1年間全力で取り組んだメンバーの表情やことばは、また私の涙腺を緩ませるに違いない。

(同志社ローム記念館プロジェクトコーディネーター 西村ひろみ)

表紙の人

おおの ゆか
大野 祐香さん
同志社女子大学芸学部
情報メディア学科1年次生

ステップアップキャンプの企画会議、「海賊になりきってみんなを楽しくワークに引き込もう!」と手を挙げたうちのひとり。一番に隊長に駆け寄り海賊を演じた。こつこつと広報ツールのデザインをすることも好きだが、自分の意見で議論がぐっと大きく前に進むような、会議でも貢献できるメンバーになりたい。縁の下の力持ちと言われるような存在を目指している。

プロジェクト・サポート 募金のお願い

学校法人同志社 総長 大谷 實
理事長 水谷 誠

学校法人同志社は、同志社大学ならびに同志社女子大学を中心とした法人内各学校が一致協力して同志社ローム記念館でのプロジェクト主義に基づく新しい教育・人材育成を積極的に進めています。また、これまでも現代GP申請による補助金獲得など学外資金を積極的にとりいれるべく努力をしております。この同志社独自の新しい教育・人材育成事業を発展的に展開させるために、教職員をはじめ広く社会、市民のみなさまからご支援をお願いすることとし、プロジェクト・サポート募金を実施しております。皆様方におかれましては是非ともご賛同いただき、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。募金のパンフレットおよび詳細につきましては、大学京田辺校地総務課(ローム記念館事務室)にお問い合わせください。募金は、大学資金課、女子大学経理課、各校事務室でも受け付けます。

Vol.25
April 2016

プロジェクトはドラマチック!
2016年度プロジェクト活動レポート



プロジェクトは ドラマチック!

1年後、新しいものを生み出すことを約束する。
 そのための1日、1日は新しいことの連続だ。
 大笑いもあつと驚くひらめきも、冷や汗も悔し涙も…
 毎日が1年間続くドラマ的一幕。
 ひとりじゃない。
 みんなとだから、プロジェクトはドラマチック!



Pick up!

ステップアップキャンプ



参加メンバー104名、過去最多の参加人数となった今回のキャンプのテーマは「表現力とチームワーク力」。2日間を通して常に意識してもらうには?とスタジオZeroが考えたのは、みんなに「海賊」になってもらうこと。各プロジェクトがそれぞれひとつの海賊団、海賊団同士も協力して敵に立ち向かい、太古の秘宝を見つけ出すというストーリー仕立てだ。敵の策略で声が出なくなり、ジェスチャーで伝えることが求められるワーク、チームで心をひとつにして捕らえられたリーダーを助け出し、数々の障害を乗り越えるワークなど、スタジオZeroの総勢28人のキャンプ担当メンバーが自らも海賊に扮し、ファシリテートした。数々の困難を乗り越えて見事手に入れた太古の秘宝とは「仲間との絆」。プロジェクトの目指す場所へは、仲間との絆が導いてくれる、と締めくくった。





プレ・プロ 秋

「ウルシ×○○[japan] productsの開発」

10/18～1/10 毎週火曜日 17:00～18:30

3か月という限られた期間で学生が主体的に取り組み、プロジェクトに必要なスキルやマインドを実践的に身に付けてもらう「プレ・プロジェクト」も今回で6期目となる。今回のテーマは、様々な素材や造形を掛けあわせた「ウルシ」商品の開発。漆を使ったアート作品を数多く発表されている漆芸作家の榎本さや香氏を講師に迎え、塗料の扱い方や螺鈿・蒔絵などの伝統技法を学び、既存概念にとらわれず自由な発想で商品を企画。試作品を作成して商品開発のプロセスを経験する。日本を代表する工芸技術と学生ならではのユニークなアイデアで新たな漆工芸＝[japan]の誕生に期待したい。

※今回は漆風の仕上がりになる合成樹脂塗料カシュを使用。



プレ・プロ 春

『「京田辺キャンパス開校30周年記念」プロモーションムービー制作』

5/17～7/9 毎週火曜日 17:00～18:30



2016年春のプレ・プロジェクトでは、「京田辺校地開校30周年」をテーマとしたプロモーションムービーの制作に取り組んだ。1986年に開校し30年を経た京田辺キャンパスを、大学・女子大学の学生で構成された4チームが「現在」の視点で切り取る。

昨年のプレ・プロもご担当いただいた櫻井篤史先生（ファインダーズ・ビューロー代表）を講師に迎え、プロモーションの考え方、構成台本の作り方や撮影技法について座学形式でのレクチャーを受けた後、それぞれのチームが作成した構成台本に沿ってビデオカメラを手に撮影に臨んだ。

意識調査のため、学生100人にインタビューするという企画を立てたチームもある。

いざ撮影となるとキャンパスを行き交う見知らぬ学生に、撮影許可をとりコメントをもらうということの難しさに直面し、くじけそうになった。「まずは近くにいる学生から」とアドバイスをもらったメンバーは再度チャレンジ。しばらくすると、「インタビューできました！私達やれました！」実に晴れやかな顔で先生のもとにやって来た。そして、再びローム記念館を飛び出す。彼女たちのプロジェクトが走り出した瞬間だった。（緊張してカメラが回ってなかったことに気付くのはもう少し先の話だが）

こうして苦労しながら撮影した素材をもとに、後半、ローム記念館内にあるマルチメディアラウンジ（MML）で編集作業が行われた。MML内のスタジオではプロナレーターによるナレーションの収録も行われ、立ち会ったチームはプロの仕事現場を目の当たりにし大いに刺激を受けた。

プログラムの最終回、完成作品の合評会では、同じ「京田辺キャンパス」を扱っていても、全く異なる切り口で制作された映像を見たメンバーからは笑いや驚きの声があがった。「このチームでこれからも作品を作っていきたい」という嬉しいコメントも。限られた時間の中で企画し、役割を分担して協力しあい、困難を乗り越え目的を達成するプロジェクトの醍醐味を体感することができたようだ。

中間報告会 9月24日（土）

プロジェクト活動が始まって半年が過ぎようとしている。中間報告会は上半期の活動経過や今後の展望を報告する場だ。劇場空間のステージでは、審査員や他プロジェクトのメンバーを見上げ、8分の持ち時間で自分たちの活動をアピール。目標達成に向かっていかに精力的に活動し、成果をあげているか、どれほど魅力的なプロジェクトであるか、趣向を凝らして報告する。

後半の質疑応答では、会場を移して各プロジェクトがブースで成果物や資料を用意。審査員や他の参加者からの質問や意見に個別に応える。1年間、ともに館内で活動するプロジェクト同士だが、活動の進め方や取組内容など今回初めて知ること多い。他のチームの成果物に触れ、感嘆の声があがる。委員や外部審査員のコメント、アドバイスを真剣な表情で聞き入るメンバーも。

自分達の活動を再認識し、多くの人との対話の中でそれぞれに大いに刺激を受けた一日。

最終成果報告会に向けて残り半年、より質の高い成果へ結実するよう、活動に邁進してほしい。

2016年度 プロジェクト活動レポート

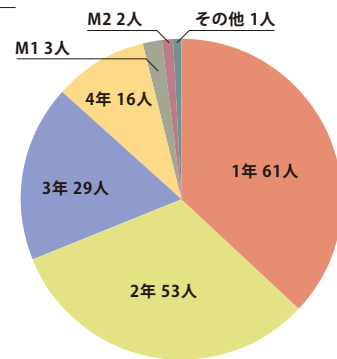
第13期のプロジェクトの活動期間も折り返しを迎えた。

今年は2年生がリーダーを務めるプロジェクトが多く、「どうしてかわからない!!」と、プロジェクト運営に頭を抱えることもしばしば。

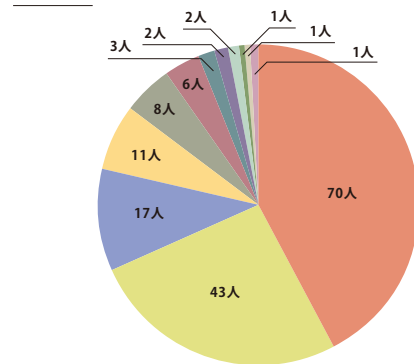
ランチタイムや授業後の時刻にはプロジェクトルームに続々とメンバーが集まってくる。楽しいチーム活動だが、時にぶつかったり、すれ違ったり…日々さまざまなドラマがあるようだ。

2016年度 プロジェクトメンバー数

学年別



学部別



- 理工学部
- 文化情報学部
- 生命医科学部
- 女子大 情報メディア学科
- 女子大 薬学部
- スポーツ健康科学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- 女子大 現代社会学部
- 女子大 音楽学科
- 心理学部
- 学外
- 女子大 音楽学科

スタディドットVR

提出物は余裕を持って締切1日前、いつも笑い声が聞こえるルーム。

その中心にいるのは、リーダーを中心とした2年生のコアメンバーたち。昨年度大賞を受賞したプロジェクトの元メンバー、先輩達から学んだことを活かして大賞を狙う。今年のテーマは「科学と遊びの相互作用」、VR (ヴァーチャルリアリティ: 仮想現実) を使ったスマートフォン向けゲームアプリの開発を目指している。

いざ自分達でチームを動かすとすると、わからないことも多く、不安もいっぱい。VRというテーマのためか、予想より多くのメンバーが集まり、総勢20人のチームになった。なんとかみんなの気持ちをひとつにしたい、みんなのアイデアを活かしたい、とプロジェクト内ハッカソンを企画、スケジュールやプログラムの調整に苦心しながら準備を進める。

6月27日から7月3日までの1週間、メンバーを3つのチームに分けて開催、アプリに組み込むミニゲームとWebサイトを制作した。夏休みには、合宿に科学館への視察に、と楽しみながらも精力的に活動。スマホアプリ「マナリカVR」をリリースしたが、更にバージョンアップさせたい。本当の完成までにはまだいくつも山が待っていそうだが、前半に培ったチームワークで乗り越えてほしい。



ROBOX

精華町を中心に展開されている「けいはんなジュニアロボットクラブ」と連携し、C言語を使った小中学生向け教育ロボットキットの開発を目指す。

新メンバーの獲得に苦労した春。なんとか活動内容をわかりやすく伝えようと、昨年度のロボット製作教室の内容をカスタマイズして新メンバー向けのデモプログラムをつくった。その甲斐あって、教育キットづくり、プログラミングに挑戦したいという元気な1年生が加入し、チームが走り出した。

ロボット教室は、5月29日にスタート、月1回で全7回のプログラムだ。スケジュールに沿って、教材をつくりながらの教室運営で常に追われる毎日。ベース基板の設計に難航し、1ヶ月近く完成が遅れたが、教室は待ってくれない。夏休み、深夜までの作業が続く。何とか完成し、基板を注文しても、納品され、無事に動いてくれるまで安心はできない。「もしもの時は…」チームで話し合い、いくつかの方法を事前に想定して教室に臨む。

9月某日、基板は無事、希望通り仕上がり、最良のパートナーで教室当日を迎えることができた。

すっかり仲良くなった参加者の子どもの笑顔がはじける教室も、残り3回。ロボットの完成は近い。



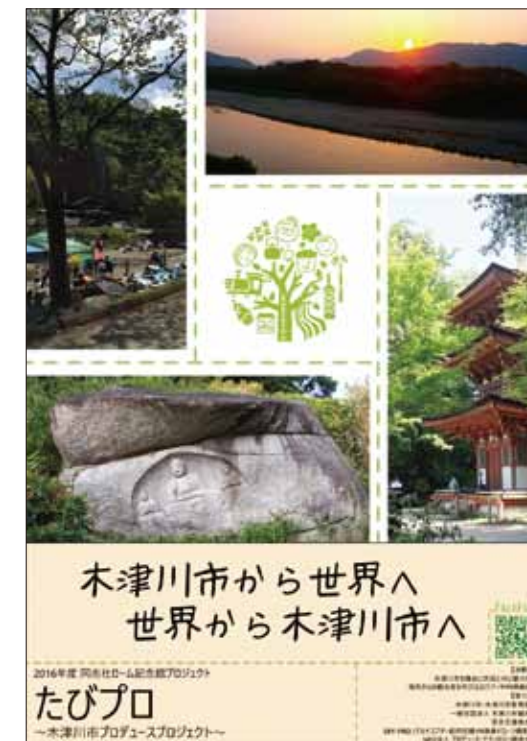
たびプロ ～木津川市プロデュースプロジェクト～

1年半前、はじめて参加したプロジェクトで大賞を取った。翌年、先輩達の思いを受け継ぎがんばったが受賞を逃し、その時の悔しい思いが忘れられない。そんなリーダーを中心にプロジェクトがスタートした。

京都府木津川市をフィールドに中学生と連携しながら、海外からの観光客を対象としたツアープランの開発を目指す。世界中から注目してもらうためにはWebの活用、特にアピール度の高い動画の制作・発信が必要だと映像制作を中心にを行うメンバーの募集にも力を入れた。

カメラを片手に市内を駆け回る。顔なじみの人、応援してくれる人も増え、メンバーのTシャツに描かれた「きづのもり」のマークに反応してくれる人もいる。

8月には、ウォークラリーやミールクーポンなどの企画を盛り込んだ第一弾の「きづな旅」を実施、周りの協力を得て何とか無事に終えたがまだまだ改善点も多い。これから、ドローンを使った動画撮影や、まちのみどころを集めた映像の編集、11月には第二弾のツアー実施を予定している。さらにチームの結束を高め、メンバー同士がもっと補い合えるようにしたい。ツアー開発も映像制作もまだまだこれから。胸を張って立つ最終成果報告の場をイメージし、日々彼らのプロデュースは続く。



同志社スポーツ応援隊

自分達が大好きなスポーツを、興味のない学生達に伝えるにはどうすれば良いか、学生のための学生らしい企画、昨年度からの課題である。本年度は野球やラグビーに加え、女子ラクロスなど、学生達にまだまだなじみの薄いスポーツにも目を向け、新たな応援企画を考えている。

スタジアムに行けば楽しいことはわかっているが、スタジアムに足を向けてもらうまでの工夫にメンバーの手腕が問われる。どんなことに学生が興味を持つのか、とにかく自分たちが面白いと感じることをたくさん挙げ、企画にまとめていく。

硬式野球同立戦バスツアーに同志社クローバー祭でのイベント企画、ラクロスやラグビーの試合もある。少人数チームでは、ほぼひとり1イベントを担当する責任の重さがある。就職活動を終えた4年生メンバーが春先にふんばってきた下級生の活動を後押しする形で、秋のスポーツシーズンを迎える。

活動2年目ということもあり、「同志社スポーツ応援隊」という団体の認知度も上がり、関係各所との連携もスムーズになってきた。プロジェクトは1年単位だが、中長期的な目線で企画を考えていくことも必要だと痛感する。

最初は小さなきっかけづくりからだが、大学全体でスポーツを「応援する」というムーブメントをもつくるチームでありたい、と日々活動を続ける。



えこ学@京田辺

昨年度に引き続き、京田辺市内の小学生を対象とした環境教育教材の開発に取り組むプロジェクト。

今年は、プログラムをさらにブラッシュアップし、普賢寺小学校4年生2学期の授業10コマを担当することになった。

テーマは昨年度と同じ「水」「森」「動物」。普賢寺小学校は、すぐ前に川が流れ、田畑や山、竹やぶに囲まれている。そんな学校の立地を活かして、子どもたちに環境について考えてもらおうと考えたテーマだ。前回の反省点を活かし、学びをより深くするための工夫を重ねる。

春にメンバーみんなで行った小学校の授業参観では、先生がその回のめあてを常に黒板に示しながら授業を展開していたことが印象的だった。1コマの授業についてたくさんの項目を盛り込みがちになるのを抑え、各回のねらいを明確にすることを心がける。見る、聞く、考える、今は何をやる時間なのかを明確にした説明の仕方や、図やことばでの表現方法など、授業内容はもとより、ひとつひとつの伝え方にも気をつけて作り上げようとした。

授業の目玉である「実験」の実験も重ねる。修正したプログラムを手に小学校へ足を運び、小学校の先生からアドバイスを頂きながら完成させる。

いよいよ本番はこの秋、子供たちの目をきらきらさせられますように。



technologica

自分達の手でロボットをつくる、その楽しさ、ノウハウをより多くの人に伝えるために日々ロボット製作やアプリ開発に取り組んでいるのは、総勢19名の「technologica」だ。

コアメンバーは2年生、9月の「キャチロボバトルコンテスト(キャチロボ)」に向けて準備を進めてきた。決められた商品運ぶロボットの製作や操作技術を競うロボコンだが、今回が初挑戦、メンバー全員本番直前まで機構の設計や加工を工夫した。

当日は、毎年出場する強豪のせめぎ合う中、予選敗退となったが、大会出場で得た知識や技術は、アプリ開発や秋のNHK学生ロボコンに繋げる。

同志社クローバー祭では「TOWARD THE TERRA」と題して、地球への旅をテーマにしたロボコン企画「地球(テラ)へ・・・」や、キャチロボに出場した機体やアプリの展示・操作体験を行う。中でも、ロボコン企画は1年生が主導、機体作りやルール整備など、初めてのことも多い。夏休み、コンテスト前の忙しい時期を迎えた先輩達を頼るまいと、連日1年生メンバー同士、声をかけあって設計製作を続けてきた。見るだけでなく実際に体験できる楽しいイベント、是非足を運んでほしい。



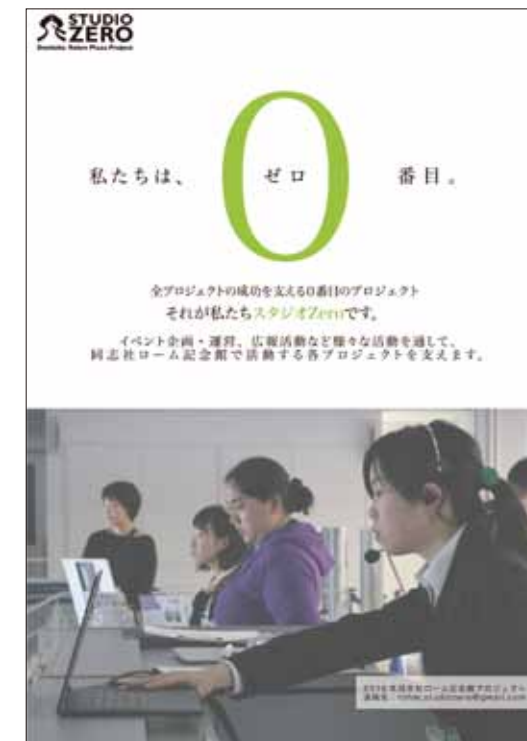
スタジオZero

スタジオZeroは、継続を前提に活動する唯一のチームだ。「プロジェクトの成功をサポートする」ことを目的に、毎年、他のプロジェクトの状況を見ながら活動の方針を決める。今年のテーマは「達成感」。プロジェクトメンバーが達成感を持って活動を完遂することを目指し、プロジェクト全体行事や広報企画を展開するなど、プロジェクト活動をサポートする。

各プロジェクトの新メンバー獲得を推し進める中で、今年はスタジオZeroへの参加希望者が多く、他のどのチームよりも大所帯となった。プロジェクトを知らないZeroのメンバーが一気に増え、先輩達には新メンバーを「一人前のZeroメンバーにする」こともまた、重要なタスクとなった。

6月のスポーツイベント、夏に開催されたステップアップキャンプ、新メンバーはどちらかを担当。何度も企画を練り直し、リハーサルを重ねる。よりわかりやすく、メンバーの成長につながるようツールを何度も作り直す。スケジュール管理や情報共有の大切さを知るとともに、Zeroらしいこだわり、Zeroだからできることの追求を体感した。

秋には2年生を中心とした新体制がスタートする。受け継ぐべき大切なことを守りつつ、新たなZeroの風を吹かせてほしい。



Pick up!

プロジェクト勉強会「企画のススメ」



本年度のスタジオZeroに「勉強会」チームが発足した。プロジェクトメンバーのスキルを向上させるべく、ニーズにあわせて勉強会を行う。第一弾は5月18日、自分達の経験をもとに、企画とは？スケジュール管理とは？など、プロジェクトの基礎を学ぶプログラムを用意。ワークの進行もスタジオZeroが担当した。どんな勉強会も自信を持って伝えられる、そんなチームになるのが理想だ。

Pick up!

劇場空間だからできること!

京田辺キャンパスのランドマーク、同志社ローム記念館。

大きなひさしと階段状の劇場空間は、暑い日や雨の日でも待ち合わせ、友達とのランチタイムを快適にしてくれる。ランチタイムに大学が主催する説明会やセミナーなどが開催されていることは知っている人も多いかもしれないが、「劇場空間」は、もっとさまざまな用途での利用が可能だ。

開放的なスペース、2つの大画面を活かしてぜひいろいろなイベントや映像の企画を考えてみてほしい。

クラブ・サークル(学生団体)のみなさん

大会やイベントの告知、活動紹介の動画放映、演奏会、演舞イベントの開催、その他各種イベント など



学校法人同志社 諸学校の教職員・生徒のみなさん

クラブ等活動成果発表、展覧会、イベント告知、制作作品等動画放映、学部・学科・クラス主催のイベント、講演会 など



企業・団体のみなさん

学生向け企業紹介イベント など



詳しくは、同志社ローム記念館事務室(ローム記念館2階)までお気軽にお問合せください。

プロジェクトはドラマチック!

13

劇場空間だからできること!

Event Report

イベント報告

2016年4月～
2016年9月

同志社ローム記念館プロジェクト「プロジェクト交流会」

4月13日(水)

各プロジェクトが活動予定をプレゼンし、メンバー募集活動を展開。スタジオZeroが企画したゲームイベントで交流がはじかれた。

主催：同志社ローム記念館プロジェクト「スタジオZero」



play_play_play

4月28日(木)

授業の一環として、短期間でステージづくりを体験。観客も多数集まり大いに盛り上がった。

主催：同志社女子大学 現代社会学部 現代こども学科 ガールズメディアバンド



プログラム「邦楽部」ランチタイムコンサート

7月6日(水)

主催：同志社大学
学生支援センター



「木津川市プロデュースプロジェクト」合同ミーティング

8月9日(火)

木津川市の5つの中学生チームと大学生プロジェクトメンバーが集まり活動の進捗報告。今後の活動に向けて専門家からのアドバイスをもらった。

主催：同志社ローム記念館プロジェクト
「たびプロ〜木津川市プロデュースプロジェクト〜」



イベント

グローバル教育センター

海外フィールドワーク科目説明会

4月7日(木)、8日(金) *今出川校地 良心館との中継により2校地開催
主催：同志社大学 国際化推進室

同志社クローバー祭実行スタッフ 2016年度スタッフ募集説明会

4月12日(火)

主催：同志社クローバー祭実行スタッフ

ステップアッププログラム「スマートな大人になろう!」

4月18日(月)、19日(火)

主催：同志社大学 学生支援センター

プログラム「コーポにちにち草のくらし」映画上映・メイキングトーク・展示会

4月27日(水)

主催：同志社大学 学生支援センター

キャリア×グローバル〜やっぱり英語力?〜(連続セミナー：全6回)

5月10日(火)～7月14日(木) *今出川校地との中継により2校地開催

主催：同志社大学 国際センター国際課、国際化推進室

「木津川市プロデュースプロジェクト」キックオフ・ミーティング

5月27日(金)

木津川市内5中学校の中学生メンバーと連携した取組がスタート。海外からの観光客を対象としたまちあるきプランの開発を目指す。

主催：同志社ローム記念館プロジェクト

「たびプロ〜木津川市プロデュースプロジェクト〜」

Doshisha Spirit Week 2016春

5月30日(月)

主催：同志社大学 キリスト教文化センター

JICA海外ボランティアセミナー

6月2日(木)

主催：同志社大学 学生支援センター

TOEFL夏休み集中講座説明会

6月14日(火) *今出川校地 良心館からの中継

主催：同志社大学 国際センター国際課

TOEIC夏休み集中対策講座説明会

6月15日(水) *今出川校地 良心館からの中継

主催：同志社大学 国際センター国際課

プログラム「スティールパン奏者nigumo」コンサート

6月17日(金)

主催：同志社大学 学生支援センター

プログラム「河野亜季短編アニメ」映画上映・メイキングトーク・展示会

6月22日(水)

主催：同志社大学 学生支援センター

Fair Trade ってなに?

7月4日(月)、7月8日(金)

主催：同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部
Seminar Project Fair Trade

大学スポーツシール投票「夏のおしゃれ甲子園」

7月11日(月)～30日(土)

秋に開催する硬式野球部の応援バスマナーを控えシール投票を実施。

主催：同志社ローム記念館プロジェクト「同志社スポーツ応援隊」

2016年度プロジェクト科目春学期成果報告会

7月24日(日)

主催：同志社大学 プロジェクト科目検討部会事務局

ガールズサイエンスキャンプ 講義「笑いを科学するってどういこと!」

8月10日(水)

主催：同志社大学提供「科学するガールズ」養成プログラム

Event Report

14

ローム記念館イベント報告